

第20回熊本市液状化対策技術検討委員会 説明資料 【近見地区】

【報告2 液状化シンポジウムの開催報告について】

熊本市

令和6年2月1日

〇タイトル

「液状化に強いまちを目指して」～自助・共助・公助の連携による防災力の向上～

〇開催日時・場所・参加者

- ・令和5年12月3日(日)
- ・日吉小学体育館
- ・近見地区(日吉、力合、城南校区)にお住まいの方_約50名

〇目的

これまでの事業の総括と今後の事業の流れを説明すること及び液状化対策施設には、耐用年数があるため引き続き個人での液状化に対する備えが必要であることを説明した。



写真:液状化シンポジウムの様子(日吉小)

○第1部 講演

公助

講演1「熊本市宅地液状化防止事業について」

⇒北園会長にてご講演

講演2「液状化対策施設の維持管理と個人での液状化対策について」

⇒村上委員にてご講演

自助

講演3「液状化のソフト的対策について」

⇒竹内委員にてご講演

共助

○第2部 ディスカッション

- ・住民の皆さまが疑問に思っている内容や今後の液状化対策、防災に役立つ情報など様々な分野からご質問いただき、その内容について専門的な立場や行政の立場から回答しました。

○登壇者

講演者3名、地元の代表者3名、日吉小学校校長、熊本市都市安全課長



写真：第2部ディスカッションの様子

○質問票にいただいた主なご意見

Q.液状化施設の耐用年数は30年～50年という話だが、施設の更新は予定していないのか。

A.ポンプなどの機械施設は維持管理を行いながら適宜更新します。
しかしながら、集水管や遮水壁の維持管理について、損傷の状況や経年劣化によっては、更新が不可能となってくることが考えられます

Q.対策区域外について、遮水壁設置により地下水位が地区内と比べ不連続に変化すると思うが、その影響は問題ないか。

A.遮水壁は道路直下にあり、その道路内で水位差が生じています。定期的に観測を行っていますが、現在のところ地下水位低下による影響はありません。

その他、質問への回答やシンポジウムの開催状況については、都市安全課のHP上にて公開しております。

